

011	From Editor
013	表紙の時計 / ラドー ハイパークローム 1616
015	Editor's Choice!
022	リシャール・ミル RM 17-01 トゥールビヨン / ブレゲ クラシック オーラムンディ 5727 / A.ランゲ&ゾーネ ランゲ1 タイムゾーン / ローマン・ゴティエ ロジカル・ウンチタニウム / ロンジン・アヴィゲーション タイプ A7 1935 / センセル・プリメロ レンジ・ローバー / ロマンジエローム スカイラプ 48 スピードメタル スカル SLN
022	世界は時計で回っている。
024	ザ・アワーグラス・ジャパン・スペシャル・モデル
024	オーデマ・ピゲ ジュール・オーデマ・グランドソヌリ・カリオン
026	パネライ ムラジオミール 1940 ミニッツリピーター カリオン トゥールビヨン GMT
026	ブラックのモダンなデザインの鳴りものを検証
028	ジラール・ペルゴ 現行ミニッツリピーター
028	1966 ミニッツリピーター! 年次カレンダー & イクエーション・オブ・タイム / ミニッツリピーターブリッジ・トゥールビヨン
030	アスプレイ・ジ・アスプレイ・アンセウス・アールツィ
030	ボヴェエとの協力で誕生した古典的にして個性豊かな腕時計
032	カール F. ブヘラ ムネロペリフェラル
032	都会的な優しさと洗練さを纏った自社製ムーブメント第2世代
035	2017年ブランド別新作情報(ジュネーブ編)

# 不確実な時代に光明を求めて

036-073...SIHH / 074-0883...カレテツルロジエ@SIHH / 084-0885...WPHH /  
086...ボヴェエ / 087...F.P.ジュルヌ / 089-091...フレバセルラルガリ / ウプロ / セニス

1月16日から5日間にわたってジュネーブのパレクスポで開催された第27回SIHH、また同期間にウオッチランドで行われたWPHHや単独の新作発表会で登場した主だった新作をブランド別に掲載。輸出が大きく減少しているスイス時計業界だが、各社、それにどのような対策を練っているのだろうか。新作からそれを読み取ってみたい。

094	ラルフ・ローレン、RL67 サファリ グランドデイト サファリの荒々しさや大胆な冒険心をサイズで表現した新作
095	タグ・ホイヤー、カレラ キャリバー ホイヤー 01 & カレラ キャリバー 16 「ブラック」で魅せてきた「攻め」のスタンス
096	ブルガリ、オクトウルトラネロ & セルペンティトゥボガス 幅広い層を狙い、既存コレクションを充実させたプレバール
098	新製品情報
104	ゼニス、エルプリメロ 上原浩治選手限定モデル 日本人初のゼニス グローバルアンバサダーの限定モデル誕生
105	ロジェ・デュブイ 銀座ブティック 前田健太選手のテープカットで幕開けた日本初の旗艦店
106	リニール・オープンした自由が丘 一誠堂 「あきない誠二筋に」をモットーに85周年をむかえ、全面改装
107	移転・拡大しリニール・オープンしたオオミヤ大阪・心斎橋店 新たなコンセプトで「時間を堪能できる空間」が誕生
108	第25回 モンブラン国際文化賞 日本における授賞式 若いアーティストの才能を支援する坂本龍二氏が受賞
109	第1回 ブルガリアウローラアワード ブルガリが才能と創造性を発揮する女性たちを祝福
110	2016年度 ロレックス賞およびヤング・ローリエイツ部門の受賞者が決定 社会に渦巻く多様な課題に挑む人々を支援するロレックス
111	クロックツ
112	シチズンミュージアム 歴代時計が語る「市民に愛され親しまれるものづくり」
113	カミーユ・フォルネリペアサービス 傷んだストラップを「仕立て直し」してみました
114	120 インフォメーション／問い合わせリスト／次号予告

# リシャール・ミル ◊ RM 17-01 トゥールビヨン ◊ 新素材の採用で進化を遂げた薄型トゥールビヨン

リシャール・ミルが1月に開催されたSIHHで発表したRM 17-01が早くも日本に入荷する。ホワイトのATZ(アルミナ強化ジルコニウム)セラミックスをベゼルと裏蓋に採用し、ホワイトのラバー・ストラップを合わせたモデルだ。異なるセラミックス素材を混合させたATZセラミックスは高い強度を持ち、ビッカース硬度1400で耐傷性にも優れることから、ベゼルの素材に適している。レッドゴールドのミドルケースの構造は複雑で、主要部品の製造には68の異なるスタンピング加工が必要だという。

2011年にリシャール・ミルはレクタンギュラー・ケースでRM17トゥールビヨンエクストララットを発表した。これはその後継機種だが、多くの新しい試みを行った。スケルトナイズしたムーブメントをケーシングではなく、サイレントブロックの上に4つのチタニウム製ネジで取り付けた点も特徴のひとつだ。

文字盤上ではリシャール・ミルではお馴染みのファンクションインジケータを備える。4時位置の針がリュウズを1段引くとW(巻き上げ)、2段引きでH(時刻合わせ)、元に戻すとN(ニュートラル)を表示する。また2時位置にはパワーリザーブ表示を備える。



## RICHARD MILLE RM 17-01 Tourbillon

縦48.0mm、横39.7mm、厚さ12.6mmのケースにトゥールビヨンを装備する手巻きのCal.RM017(23石、毎時2万1600振動、パワーリザーブ約70時間)を搭載する。ミドルケースは18KRG、ベゼルと裏蓋はATZホワイトセラミックス、リュウズはブラック・セラミックス製。予価5378万4000円。

## ブラックのモダンなデザインの「鳴りもの」を検証

昨年、パネライ初のミニット・リピーターが誕生した。コンテンツポラリー・ブラック・スケルトンの大胆な意匠をもつこの時計が日本を訪れた。プロトタイプではあったが、澄んだ音色が印象的だった。その詳細をみてみたい。

文字盤やムーブメントまわりをアグレッシブなまでに切り刻み、さらにブラックの表面加工を施した一連のコンテンツポラリー・ブラック・スケルトン・モデルは、各部にオフィチーネ・パネライらしさが溢れているため、どこか好感が持てる存在ではないだろうか。今回、そのブラック・スケルトン・コレクションに、新たに同社初となるミニット・リピーターが仲間入りしたので、ここにリポートしよう。

……そうは言っても、今回が国に上陸したモデルはまだ完成品ではなく、世界中を巡りながら各国でお披露目を行い、本国に戻ったのちに様々なチェックをするための「増加試作機」である。しかし、結論を先に述べるのなら、これまで軽く2000回は鳴らしたと覚しきミニット・リピーター機構などへあたりは微塵も感じられず、そのいっぽうで音色の方もこうしたプロトタイ

プにしては優しく澄んだメロディを奏でてくれた。もちろん、今回のお披露目行脚は繊細なミニット・リピーター機構の耐久テストを兼ねていたようで、本機を携えて来日した技術者はこうした結果に、しごく満足した表情を浮かべていた。

まずは細部を見て行こう。3気圧防水とシースルー・バックを装備した超大型のケースは直径49mmで、素材には18Kレッドゴールドが選ばれた。むろん、この銅を含むゴールド素材と、内部に多くの空間を設けることができる大型ケースのふたつは、リピーターの音響効果を十二分に引き出すためのものである。さらに外からは分かりづらいものの、実際にはケースの内側は上下に2分割された2重構造が採用された。

このピン・クッション型の大きなケースに搭載されるのは、30秒で1周するトゥールビヨン・エスケープメントと、ミニット・リピーター機構、さらにセカンド・タイム表示を備えた手巻き式のCalendar 2005/MR（直径36・64mm×厚さ10・35mm）で、59石、2万8800振動の基本スペックと、ツイン・バレルを搭載することによって約4日間のロング・パワー・リザーブをもつ。

もともと特徴的なのは、セカンド・タイム用の針を装備するのにも関わらず、通常の現在時刻だけではなく、ミニット・リピーター機構を任意に切り替えることによって、持ち前のチャイムを使って第2時間帯を耳で聞けることだ。ちなみに両者の切り替え用のプッシュャーはクラウンの中央部に取り付けられており、文字盤の9時位置に用意されたふたつの丸窓のインジケータで、どちらかにセットされているか確認することができる。

いっぽう、カリオンの名称が示すように、3本のゴングと3個のハンマーを備えたミニット・リピーター機構は、

はじめの「時」で低音、中間で3連打のメロディ、そして最後の「分」で高音のチャイムを奏でてくれる。ただし、その中間の音は一般的な15分単位のクォーター・アワーを打つのではなく、10分単位の「分」を奏でてくれるのが特徴だ。たとえば9時36分では、はじめに「時」が9回鳴り、続いて3回の「10分」、そして「残りの分」が6回打ち鳴らされる。

また、リピーターをスタートさせるトリIGGERは通常のスライダではなく、トラベルの少ないプッシュ式のボタンで作動する仕組みである。これを可能としているのはグラウンド・ソヌリなどと同様に、リピーター専用のバレルを装備しているためであるが、さらに面白いのは、ミニット・リピーターの作動はクラウンを僅かに回転させた状態、即ちクラウンに刻まれた黒いドットが見える位置でのみリピーターがスタートを切る仕組みとなっている。



表裏に現代的なブラック&スケルトン加工が施されたミニッツリピーター・カリオン。8時がリピーター用のプッシュ・ボタンで、クラウンの中央が通常時刻とセカンド・タイムの切り替えボタン。スモール・セコンドを収めた9時位置のインダイアル下に、そのインジケータを装備する。ミニット・リピーターは「時」+「10分単位」+「残りの分」で時刻を知らせてくれる。価格5184万円。



シースルー・ケースバックが採用されたミニッツリピーター・カリオン・トゥールビヨンGMTモデル。30秒で1周するトゥールビヨンはテンプの回転軸に対して垂直にまわる。その右隣は4日間のパワーリザーブ計で、ムーブメント周囲にはゴングとハンマーが見える。

# A. LANGE & SÖHNE

A.ランゲ&ゾーネ

© A.ランゲ&ゾーネ ☎03-4461-8080

## 確実に開発の歩を進める複雑時計

毎年、少なくともひとつの複雑時計を発表してきたA.ランゲ&ゾーネだが、今年は昨年同様に既存の複雑時計にさらに機構を加えたものだが、そのために設計を一から見直した“トゥールボグラフ・パーペチュアル・プール・ル・メリット”が登場した。“ツァイトヴェルク”には鳴り物の第3弾が登場し、チャイミング・ウォッチも技術開発のテーマとして根付いたようだ。またアニュアルカレンダー機構を装備する時計の第2作目が“1815”コレクションに加わった。ところでA.ランゲ&ゾーネが復活を果たして27年目を迎えたが、その復興の支えとなったウォルター・ランゲ氏が開幕直後の1月17日に急逝された。氏のご冥福を祈りたい。



### トゥールボグラフ・パーペチュアル “プール・ル・メリット”

今年のA.ランゲ&ゾーネの新作のなかで最も複雑なモデルだ。鎖引き機構を備える“プール・ル・メリット”シリーズは1994年に発表したブランド復活の最初のコレクションに始まり、この新作は第5作目となる。鎖引き機構とトゥールビヨン、スプリットセコンド・クロノグラフ、そして永久カレンダーを備える。“トゥールボグラフ・プール・ル・メリット”（2005年）の設計を根本から見直し、ベースムーブメントに永久カレンダー機構を組み込んだという。直径43.0mm、厚さ16.6mmのプラチナ950ケースに手巻き、Cal.L133.1（52石、毎時2万1600振動、パワーリザーブ約36時間）を搭載する。参考価格48万ユーロ。10月以降発売予定。

### ランゲ1・ムーンフェイス

2002年に登場した“ランゲ1・ムーンフェイス”がムーブメントを刷新した。2015年にリニューアルしたランゲ1のムーブメントをベースとする手巻きのCal.L121.3（47石、毎時2万1600振動、パワーリザーブ約72時間）を搭載する。旧作と異なり、デイ&ナイト表示の上にムーンフェイス表示が重なる2層構造となった。ムーンフェイスは122.6年に約1日の誤差の精度をもつ。ケースは直径38.5mm、厚さ10.2mmで、写真はプラチナ950製（予価639万3600円）。ほかに18KPG（486万円）、18KWG（524万8800円）がある。6月以降発売予定。

### ツァイトヴェルク・ デシマルストライク

2009年に発表されたデジタル表示の“ツァイトヴェルク”にストライキングタイム、ミニッツリピーターに次ぐ3つ目の「鳴り物」が登場した。モデル名のデシマルが10進法を意味するように、中間にクォーターに代わり10分を打つことが特徴だ。ふたつのハンマーを備え、左のハンマーが低音で毎正時を、右側が10分毎に高い音を打つ。ルモントワール機構を備えた手巻きのムーブメント、Cal.L043.7（78石、毎時1万8000振動、パワーリザーブ約36時間）を搭載する。ケースは直径44.2mm、厚さ13.1mmのハニークォールド製。予価1408万3200円。9月以降発売予定。限定100個。

### ランゲ31

2007年に登場した、約10日間という長いパワーリザーブをもつ“ランゲ31”の10周年に合わせた限定モデルだ。前作はプラチナ950または18Kピンクゴールドのケースとシルバー文字盤だったが、新作では18Kホワイトゴールドにグレー文字盤を組み合わせた。ランゲ31はA.ランゲ&ゾーネでは初めてのルモントワール機構を装備した手巻きのCal.L034.1（62石、毎時2万1600振動、パワーリザーブ約744時間）を搭載する。ケースのサイズは直径45.9mm、厚さ15.9mm。ゼンマイ巻き上げ用の鍵を付属する。予価1701万円。4月以降発売予定。限定100個。

# VACHERON CONSTANTIN

ヴァシュロン・コンスタンタン

☎ヴァシュロン・コンスタンタン ☎0120-63-1755

## 超複雑時計の開発と工芸美の追求でジュネーブの名門の矜持を示す

ヴァシュロン・コンスタンタンは2015年に57の機能をもつ超複雑懐中時計“リファレンス57260”を発表したが、そのノウハウを生かして、グランド・ソヌリと天文時計という強力な新作が話題を作った。共に“レ・キャピノティエ”コレクションに入るもので1点製作だが、素材を変更するなど別の仕様で受注生産が可能だ。これはヴァシュロン・コンスタンタンがユニークピースを製作し、顧客に提案するシステムだ。“メティエ・ダール・コペルニクス・スフェール・セレスト 2460T”ではモデル名にあるようにメティエ・ダールを駆使した、精巧な文字盤の3部作が登場し、注目された。



### レ・キャピノティエ・セレスティア・アストロノミカル・グランド・コンプリケーション 3600

VCは超複雑機構を装備したふたつのユニーク・ピースを披露した。ひとつはダブル・フェイスに23種の機能を搭載した天文時計で、第一の特徴は普段使っている平均太陽時と、日々変化する真太陽時、そして恒星と地球の動きから割り出した恒星時の3種を表示することだ。これに加えて、永久カレンダー、均時差、月齢と月相、四季、春分と秋分、夏至と冬至、日の出と日の入り、潮位、さらにスカイチャートなどの表示をもつ。ケースは45mmの18KWGで、トゥールビヨンを備えた手巻き式のCal.3600(64石、1万8000振動、パワーリザーブ約21日間)を搭載する。



### レ・キャピノティエ・シンフォニア・グラン・ソヌリ1860

もうひとつは、VC初となるグランド・ソヌリである。最大の特徴は、3種のセレクター(自動的に正時毎を知らせるブチ・ソヌリ、同じく毎正時+15分単位のグランド・ソヌリ、さらにサイレント機構が付加)が、ベゼルに装備されていることだ。ソヌリ専用のパレルを備えるため、ミニット・リピーターが併設されており、プッシャーはクラウンと同軸上にセットされる。2時と5時にはそれぞれのパワーリザーブ計を装備する。ケースは45mmの18KWGで、CTとの共同開発によるCal.1860マニュアル(74石、2万1600振動、パワーリザーブ約72時間)を搭載する。



### メティエ・ダール・コペルニクス・スフェール・セレスト 2460RT

16世紀に太陽中心説を唱えたコペルニクスの宇宙観を表現した3部作で、ヴァシュロン・コンスタンタンが力を入れるメティエ・ダールを駆使した文字盤が特徴だ。またその中央には地球が自転しながら1年をかけて太陽の周囲を楕円の軌道を描きながら回る回帰年を再現する機構を備え、その精度は8000年に1日の誤差という。ムーブメントは自動巻きのCal.2460RT(27石、毎時2万8800振動、パワーリザーブ約40時間)を搭載し、そのローターには光線を放つ太陽のモチーフが刻まれる。

異なる技法を使って完成された文字盤のモチーフは、17世紀の地図製作者、アンドレアス・セラリスが描いたものに着想を得たものだ。右はハンドエングレービングで黄道12星座のモチーフを細密に彫り、地球にはゴールドの大陸と波で覆われる海を表現する。中央はグラン・フー・エナメルによるもので、シャンベ技法でアンドレアス・セラリスが描いた天体図を再現された。5つの惑星の軌跡は細いラインで区切れ、天体にはラテン語の名称が記される。文字盤の外周には黄道12星座がエナメルで描かれる。左はレーザー・エングレービングと手彫りの彫金で仕上げられたものだ。ミッドナイトブルーに彩色した文字盤の上にサファイアクリスタルを重ね、その裏面にレーザーで星座のモチーフを彫り、さらに彫金職人が手作業で加工して立体的に仕上げた。またサファイアクリスタルの表面にはレーザーで星座を彫り、スーパーミネバを施している。ケースはすべて18KWGで直径43.0mm、厚さ12.9mm。ベゼルには12星座が彫り込まれる。時価。今夏発売予定。プティック限定。

# RESSENCE

## レッセンス

☎モントレゾルマーレ ☎03-3833-4211

直感的で機能的な時の表示を提案する  
ベルギーのブランド

2010年にベルギーのアントワープで創業したレッセンスは“ルネッサンス”と“エッセンス”を掛け合わせた造語をブランド名とする。自社で開発したモジュールによって、回転ディスクが重なることなく文字盤上を回りながら時を示すユニークな機構が特徴だ。他には見られない技術を盛り込んでいるが、何より見ていて楽しいことがレッセンスの魅力だ。SIHHにデビューした今年、既存のタイプ1のケース・パリエーションを発表した。

### タイプ1<sup>2</sup> SQUARED

回転ディスクで時刻を表示するレッセンスの初期のコレクションである“タイプ1”に、ラウンドの文字盤にスクエアのケースを組み合わせたシリーズが加わった。ムーブメントは既存モデルと同じく、レッセンスが開発した独自のモジュールのROCS 1を装備する自動巻きのカスタマイズETA Cal.2824/2 (40石、毎時2万8800振動、パワーリザーブ約36時間)を搭載する。ケースはSS製で直径41.0mm、厚さ11.5mm、文字盤はルテニウム(写真)、シルバー、ナイトブルー、シャンパンの4色が揃う。価格259万2000円。発売中。



# URWERK

## ウルベルク

☎イースト・ジャパン ☎03-3833-9602

創業20周年を迎え、新しい一歩を踏み出す

1997年にフェリックス・バウムガートナーとマーティン・フレイによって創業したウルベルクも創業20周年を迎えた。数字を記した衛星が回転しながら時を示すワンダリングアワーは彼らの代名詞となったが、今年初めて可変仕様のモデルが登場した。ジャガー・ルクルトの“レベルソ”から発想したものだという。ケースには模様が深く刻まれ、その感触も特徴だ。最近ではレディース・モデルにも力を入れ、次の20年に向けた開発が進む。

### UR-T8

ケースサイドのプッシュボタンを押してケースを垂直に持ち上げ、それを180度回転させて文字盤側あるいは裏蓋側を表に出すことができる“変身する”モデルが登場した。モデル名のTはTransform(変形)を表す。ケースは縦48.5mm、横60.23mm、幅20.02mmのチタニウム製で両面にギョウシェを施す。ムーブメントはウルベルクの特徴である、3つの衛星に記された4つの数字が回転しながら時と分を示す“ワンダリングアワー”の自動巻き(毎時2万8800振動、パワーリザーブ約39時間)を搭載する。予価1350万円。7月発売予定。限定30個。

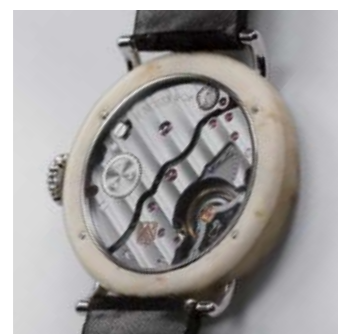


## トピックスV 「スイス・メイドにもっと誇りを！」を訴えかけたH.モーザー

H.モーザーは目の前に迫る現実をとらえ、皮肉とユーモアを込めた表現でそれに反論し、スイスの機械式時計の伝統継承を真剣に訴えかける、という、ひとひねりした手法を生み出した。昨年、SIHH開幕直前にはスマート・ウォッチに酷似したケースの機械式時計「スイスアルプウォッチ」を発表し、話題を呼んだ。そして今年、彼らのターゲットとなったのが「スイス・メイド」の規定だった。1971年に制定されたスイス法令ではスイス・メイドと表示するためには「腕時計はスイス製ムーブメントを使い、スイスでのケースリング、最終検査の導入」が要件と規定された。今年の1月1日からこの法令の改正が施行された。それによると最低60%のスイス価値をもつことと規定され、ムーブメントに関しては製造コストの60%がスイス製であることが定められた。従来の50%から60%に引き上げられたのだが、H.モーザーのCEO、エドゥアルド・メイラン氏は「60%なんて冗談じゃない。うちの時計



100%スイス製部品で作られた“スイスマッドウォッチ”。ムーブメントは手巻きのCal.HMC327(29石、毎時1万8000振動、パワーリザーブ約72時間)を搭載する。この時計は当初、スイス建国の日の1291年8月1日に因み、108万1291スイスフランという価格が設定されたが、オークションに出品することが決定された。そして落札価格の全額を独立系のスイス時計製造サプライヤー支援の基金創設に当てるという。



はストラップとケースの素材を除いて、95%以上がスイス製のパーツだ。つまり「スイスそのものだ」と反論する。スイスという名称を付けるためには一定の基準を満たさなければならぬというスイス連邦法の規定がある。対象となる産業は個々の基準もつが、本物のスイス製を総称して「スイスネス」と呼ぶ。メイラン氏はスイスネスは大歓迎だが、時計の基準が低すぎると言うのだ。そして今年の新作からは文字盤に「SWISS MADE」の文字を入れないと決定。さらに限定1個の「スイスマッドウォッチ」を製作した。

ケースにはメイラン氏が暮らすジュウ溪谷の農家の牛の牛乳から作られるチーズ・ヴァシユラン・モンドールと複合素材のITR2をそれぞれ約半分ずつ配合したものをを使う。ストラップもその農家の牛の革だ。文字盤は赤に白のクロスにスイス国旗を思わせる。自社製ムーブメントを搭載し、100%スイス製を誇る。

# 【次号予告】

## 2017年新作情報 「バーゼルワールド編」

今年も3月23日から3月30日の1週間にわたってバーゼルワールドが開催されます。スイス時計業界の2年連続のマイナス成長が話題となる昨今、果たして各社はどのような新作で攻めてくるのでしょうか。

ブーアの配置も一部、変更がありますが、これもスイス時計業界の現況を反映した縮図ともいえます。

例年、通称「テント村」のパレスで新作を発表してきた小規模の独立系ブランドはテントの廃止にともない、ホール1の3階に設けられる「アトリエ」と名づけられたスペースに移動します。そのなかにはSIHHでも新作を発表したブランドも含まれますが、創造力で勝負する彼らほどのような楽しみを提供してくれるのでしょうか。例年どおり、ブランド別に新作を紹介し、今年の新作の傾向を探ります。

### 【話題の新作を検証】

シヨパールが昨年に発表した同社初のミニット・リピーター、LUCフルストライク、パルミジャーニ・フルリエの自社製クロノグラフ、トンダククロノール、そして今年の新作のウブロ・ビッグ・バンフェラーリ、やIWCの新ダ・ヴィンチ・コレクシヨンの詳細をレポートします。

「世界の腕時計」第132号は2017年6月8日発売です。

### 世界の腕時計 定期購読のご案内

#### 毎号、送料無料でお届けします!

お近くに書店のない方、毎号確実に入手したい方  
便利な定期購読を是非ご利用ください。  
特別定価アップ分、および送料はサービスいたします。

#### 【年間購読料】

1年間(年4冊) **6,584円(税込)**

(3月、6月、9月、12月・8日発売予定)



#### 【お申し込み方法】

フリーダイヤル 富士山 富士山

●お電話で(年中無休24時間受付) **0120-223-223**

●インターネットから <http://fujisan.co.jp/sekainoudedokei>

●携帯電話から <http://223223.jp/m/sekainoudedokei>

●QRコードから 上記QRコードからアクセスして下さい。

#### 【お問い合わせ】

富士山マガジンサービスカスタマーセンター  
パソコンサイト:<http://fujisan.co.jp/cs>  
メールの場合:[cs@fujisan.co.jp](mailto:cs@fujisan.co.jp)  
に、お問い合わせください。

#### ■注意事項

- 定期購読の契約は、富士山マガジンサービスとの契約となります。
- お支払いのタイミングによっては、ご希望の開始号が後ろにずれる場合がございます。
- 地域によっては、発売日より商品到着が若干遅れる場合がありますので予めご了承下さい。
- 定期購読は原則として途中解約はできませんので予めご了承下さい。

編集の都合上、内容が一部変更となる場合もありますので、ご了承ください。

ワールドフォトプレス ホームページ <http://www.monomagazine.com>

WORLD M O O K  
ワールド・ムック1140

## 世界の腕時計

No.131

平成29年4月15日発行

発行人……………今井今朝春

編集人……………香山知子

発行所……………株式会社ワールドフォトプレス

〒164-8551 東京都中野区中野3-39-2

編集部…………… ☎03-5385-5667 FAX.03-5385-5617

広告営業部… ☎03-5385-1350 FAX.03-5385-1348

販売部…………… ☎03-5385-5701 FAX.03-5385-5703

印刷所…………… 大日本印刷株式会社

- 造本には十分注意しておりますが、万一、落丁・乱丁などの不良品がありましたら  
小社・販売部宛てにお送りください。送料小社負担にてお取替えいたします。
- 本誌掲載記事の無断転載・複製・転写を禁じます。